

ごみの減量・リサイクルをサポートします！

～「3Rオンライン相談窓口」開設のお知らせ～

東京都は、ゼロエミッション東京の実現に向けて、オフィスビル等を対象に、廃棄物の3R（リデュース、リユース、リサイクル）に関する助言を行う「3Rアドバイザー事業」を実施しています。

このたび、より多くの事業所の皆様の取組をサポートできるよう、これまでの現地訪問によるアドバイスに加えて、新たなサービスとして「3Rオンライン相談窓口」を開設しました。

事業所のSDGsのさらなる推進のためにも、ぜひお気軽にご相談ください。

■ 概要

東京サーキュラーエコノミー推進センターの専門アドバイザーが、オンライン会議ツール（Zoom 等）を通じてオフィス等の廃棄物の3Rに関する質問や悩み事等をサポートします。訪問不要です。

・ 対象者

主に延床面積3,000㎡以上のオフィス・商業施設・病院・学校などで選任されている廃棄物管理責任者等

・ 相談日時（Webでの事前予約制）

平日（祝日・年末年始除く）午前9時から12時／午後1時から5時まで

・ 利用方法



相談の申し込みにあたっては、「3R自己診断ツール」をご活用の上、次のURLまたは二次元コードからお申込みください。

<https://www.circulareconomy.metro.tokyo.lg.jp/3r-adviser>



・ 3Rの相談事例

- ・ 廃プラスチックの水平リサイクルを進めたい
- ・ ごみ減量策・再使用の取組を相談したい
- ・ 他社の事業所での先進事例を教えてください 等

本件は、「2050 東京戦略」を推進する取組です。
戦略20 ゼロエミッション
「サーキュラーエコノミーへの移行」

2050 東京戦略▶



【問合せ先】

（事業全般について）
環境局資源循環推進部計画課
電話 03-5388-3577
（相談窓口・診断ツールに関すること）
公益財団法人東京都環境公社
東京サーキュラーエコノミー推進センター
電話 03-6666-9142

参考：

3 R 自己診断ツール

Excel 形式のツールで、廃棄物の発生量・再利用率・3 R の取組状況などを入力することで、同業種の都内排出事業者との比較により簡易的に診断するものです。

✓ 対象建築物

業種：オフィス・商業施設・病院・学校など／延床面積：主に事業用 3,000 ㎡以上

✓ 自己診断について

事業所における廃棄物発生量・再利用率、3 R の取組状況などのデータを入力すると、大規模事業所のデータ（約 1 万件）により、各項目 6 段階で相対評価が可能です。

他の同様の用途や規模の事業所との相対比較で、廃棄物の種類別に発生量の多いものを特定して、自社の 3 R の現状把握と改善点の発見に活用することができます。

✓ ご利用方法

以下の URL 又は二次元コードよりダウンロードしてご利用ください。

<https://www.circulareconomy.metro.tokyo.lg.jp/3r-adviser>



< 自己診断結果のイメージ >

サスティナブル・レポート				発生量評価			
発行日：令和 7 年 4 月 1 日				令和 6 年度			
●このレポートでは、東京都環境局が都内事業者の再利用率計画書を収集・分析したデータを基に評価を行っています。 ●前述のデータから自動で算定している箇所は以下の通りです。 ▶ベンチマーク評価（発生量評価・再利用率評価） ※取組評価は、訪問時のヒアリング結果を踏まえたものです。 ▶次年度目標の数値（レポート P.2,3 右上）、目標発生量及び目標再利用率（レポート P.2,3 中段）				評価	発生量	評価	発生量
				C	65.65 トン	B	58.33552 トン
					原単位 6.257 kg/㎡		原単位 5.560 kg/㎡
建物概要				発生量全体の評価は C 評価となります。もう少し取組ができないか検討してみましょう。特に評価が低かった部分の取組を強化していきましょう。 廃棄物種類別にみると、他の事業所に比べ、⑦その他紙類の発生量抑制が優れています。 次年度は B 評価を目指して、特に評価が低かった部分の取組を強化していきましょう。③雑誌等⑤段ボール⑥飲料用びん⑧飲料用缶⑨ペットボトル⑩廃プラスチック類は他の事業所よりも発生量が多くなっています。発生抑制ができないか、検討してみましょう。			
建物所在地：墨田区				他の事業所に比べて発生量抑制の取組が非常に良くできている項目です。			
建築物所有者等 株式会社 プラスチック				⑦その他紙類	—	—	—
建築物名称 株式会社プラスチック本社ビル				A 評価	—	—	—
建物延床面積 10,492 ㎡				他の事業所に比べて発生量が多い項目です。 評価を上げられるように発生量削減の可能性がないか検討してみましょう。			
主な用途区分 ①事務所				廃棄物種類	今年度評価	今年度発生量	目標発生量
廃棄物及び資源物の発生量と再利用率				③雑誌等	E	5,400 トン	5,015 トン
実績年度	発生量	再利用率	再利用率	⑤段ボール	E	17,700 トン	7,040 トン
令和 6 年度	65.65 トン	55.45 トン	84.5%	⑥飲料用びん	E	3,200 トン	1,070 トン
ベンチマーク評価				⑧飲料用缶	E	5,400 トン	2,455 トン
※延床面積と建物使用用途が同等の都内事業者さまの実績と比較しています。				⑨ペットボトル	E	7,950 トン	6,012 トン
発生量評価	再利用率評価	取組評価	総合レベル	廃棄物種類	評価	廃棄物種類	評価
C	A	A	B	①コピー用紙・OA用紙	D	⑨その他可燃物（木・草・繊維等）	***
発生量評価 ▶詳細はレポート P.2 へ				②機密文書類	***	⑩飲料用びん	E
もう少し取組ができないか検討してみましょう。特に評価が低かった部分の取組を強化していきましょう。				③雑誌等	E	⑪飲料用缶	E
再利用率評価 ▶詳細はレポート P.3 へ				④新聞、チラシ	***	⑫ペットボトル	E
大変よく取り組まれています。S 評価目指して、取組を推進してください。				⑤段ボール	E	⑬食用油	***
取組評価 ▶詳細はレポート P.4 へ				⑥ミックスペーパー	***	⑭弁当がら	***
大変よく取り組まれています。S 評価目指して、取組を推進してください。				⑦その他紙類	A	⑮廃プラスチック類	E
				⑧厨芥類	C	⑯その他不燃物（廃プラを除く）	***
				***：発生量ゼロ			